さがの森林・林業ビジョン

2023

森川海人っプロジェクトキャプテン
「森川海人（もりかわ かいと）」くん

さがの森林・林業ビジョン2023策定にあたり

佐賀県では、令和3年、ウッドショックによる木材価格の高騰をチャンスと捉え、「森を守る」、「人を育てる」、「木を使う」の3つの取組により「さがの林業再生プロジェクト」を始動しました。

また、約半世紀をかけ、成長が早く、強度があり、花粉が少ない、三拍子揃った「サガンスギ」を開発し、さがの森林・林業再生の切り札として苗木の生産や植栽を推進しています。

佐賀県の森林・林業をとりまく情勢が大きく変化する中、県民の皆さまの期待及びさがの森林・林業の特色などを踏まえて、新たに「さがの森林・林業ビジョン2023」を策定しました。

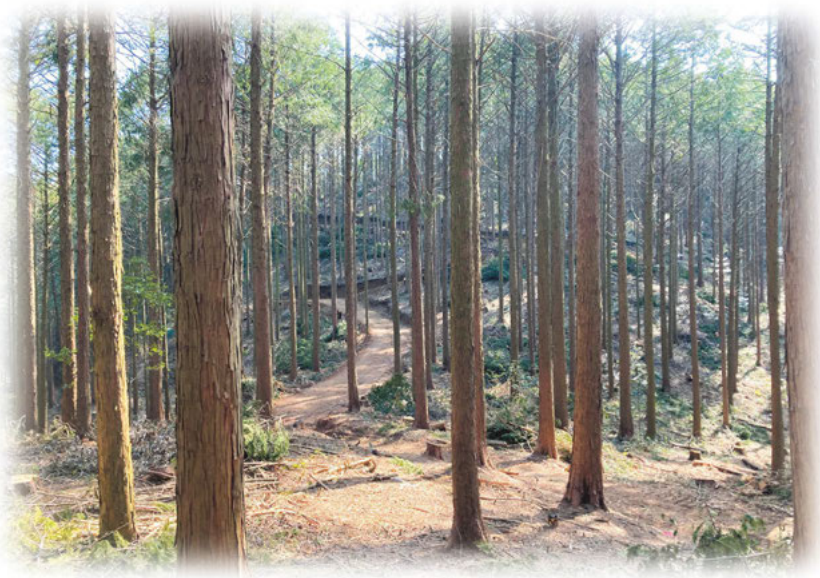
ビジョンの概要

―目標年度―

中期目標を2032年度、長期目標を2050年度とします。

―ビジョンの目指す姿―

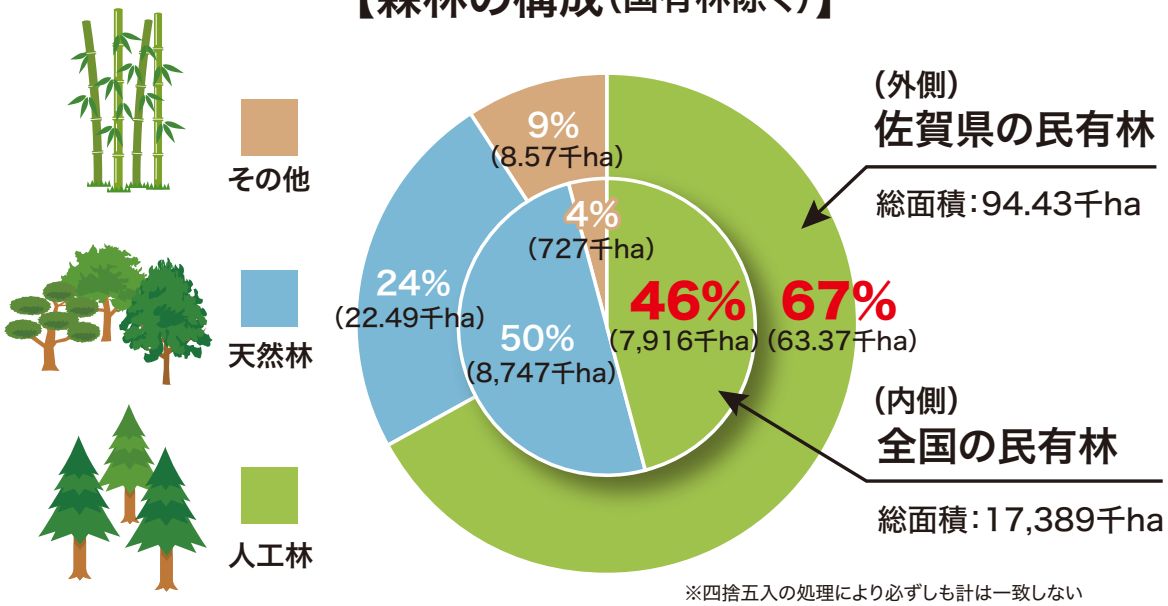
「持続可能なさがの森林・林業の確立」



全国一の人工林率

先人のたゆみない努力により、戦後、脊振山地や多良岳山地を中心として、スギやヒノキの植林が積極的に進められたことにより、**人工林率が67%と全国1位**となっています。

【森林の構成（国有林除く）】



※四捨五入の処理により必ずしも計は一致しない
※出典：林野庁「森林・林業統計要覧2022」
佐賀県「令和4年度佐賀県森林・林業統計要覧」

佐賀県藤津郡太良町

2 さがの森林・林業の特色

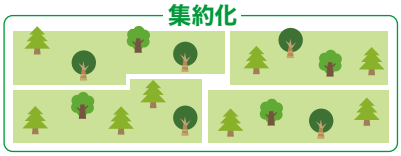
さがの林業再生プロジェクト始動

令和3年、ウッドショックで世界的に木材価格が高騰し、品薄となったピンチをチャンスと捉え、木を伐って（収穫）、使い、苗木を植えて、育てて、また伐るという森林・林業の好循環を創出するため、「**さがの林業再生プロジェクト**」を始動しました。

主な取組

第1弾 R3.6～
林業機械の導入促進

第2弾 R3.9～
森林施業の集約化推進



第3弾 R4～
林業アカデミーの開講

期待の新しいスギ「サガンスギ」誕生

早い・強い・優しい三拍子揃ったスギの新品種

佐賀県が、56年もの歳月をかけて開発し、2022年2月に苗木を初出荷しました。さがの森林・林業再生の切り札!

早い・強い・優しい 佐賀の杉 SAGAN サガンスギ SUGI

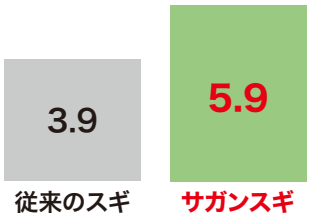
早 成長速度が1.5倍!

植えて伐るまで50年➡30年へ!
下刈(草刈り)回数5回➡3回へ!

強 木材強度が1.5倍!

建築用資材として
幅広い利用が可能

<強度(曲げヤング係数)>
(単位:kN/㎟)



優 花粉量が半分以下!

「早・強・優」三拍子そろったスギは全国初!

森川海人(もりかわかいと)っプロジェクトの展開

佐賀県の「森」「川」「海」のつながりと人との関わりを見つめ直すことで、県民の皆さん一人一人の環境保全への意識を高めていくことを目標に、県民の皆さんに向け、森川海を体験し学ぶ機会の創出や森川海で活動する個人・団体のネットワークづくりに取り組んでいます。

平成29年7月九州北部豪雨では、流木が漂着し、大きな被害に

森

川

企業や団体の皆さんも森林保全活動に取り組んでいます!

森川海人っプロジェクトキャプテン
森川海人(もりかわかいと)くん▼

KAWARUプロジェクト

KAWARU交流会

KAWARUチャレンジ事業

海

波戸岬ビーチクリーンアップ

虹の松原清掃活動

森川海人っ一日体験スクール

3 ビジョンの目指す姿と基本方針

長期目標

＜ 目標年度：2050年度（令和32年度）＞

- 森林の有する多面的機能の発揮
- 林業の持続的かつ健全な発展
- 森と川・海の結びつきの強化
- 2050年カーボンニュートラル実現への貢献

目指す姿

持続可能なさがの森林・林業の確立

基本方針

森を守る

多面的機能の発揮

- ◆間伐などによる適正な森林整備
- ◆多様な森林づくり
- ◆防災につながる森林づくり

木材の生産拡大

- ◆機械化・集約化による効率的な森林施業の実施
- ◆伐採及びサガンスギによる再造林・保育の推進

人を育てる

経営基盤の強化

- ◆生産性向上への取組強化
- ◆森林所有者の経営意識の向上
- ◆特用林産物の生産振興

林業担い手の確保・育成

- ◆労働環境の改善
- ◆さが林業アカデミーなどによる人材の確保・技術向上

県民意識の醸成

- ◆森川海のつながりへの意識の醸成

木を使う

木材の供給体制の強化

- ◆県産木材の安定供給体制づくり
- ◆流通・加工体制の強化

木材の利用拡大

- ◆建築物の木造化・木質化の推進
- ◆県産木材の新たな需要創出
- ◆県産木材の利用やサガンスギの普及啓発

Ⅰ 森を守る

1.多面的機能の発揮

（1）間伐などによる適正な森林整備

①森林計画制度に即した適正な森林整備
②佐賀県森林環境税などによる荒廃森林の再生
③森林経営管理制度（森林環境譲与税）の円滑な運用
④間伐・再造林による森林吸収量の確保
⑤野生獣類や病害虫による被害の防止対策

（2）多様な森林づくり

①公益上重要な区域における針広混交林化を目的とした重点的な間伐
②広葉樹の植栽推進
③県民協働による里山林の整備
④森林空間の利用拠点整備・強化

（3）防災につながる森林づくり

①被災した森林の治山事業による速やかな復旧
②山地災害危険地区における事前防災の推進
③流域治水に関わる関係者の連携・対策
④保安林の適切な維持管理
⑤林地開発許可制度の適切な運用

県民の暮らしと財産を守る治山事業

2.木材の生産拡大

（1）機械化・集約化による効率的な森林施業の実施

①さがの林業再生プロジェクトなどによる機械化・集約化の推進
②森林ゾーニングの有効活用
③森林資源情報の共有
④林道の整備促進・強靭化
⑤労働強度の負担軽減

（2）伐採及びサガンスギによる再造林・保育の推進

①主伐の推進及び法令に基づく再造林の徹底
②サガンスギ苗木生産供給体制の強化
③サガンスギの植林推進

さがの森林・林業を変えるサガンスギ苗木の生産状況

成果指標	現状 2021年度	目標 2032年度
再造林面積(年間)	41ha	170ha
間伐面積(年間)	1,107ha	1,900ha
山地災害危険地区（危険度評価『高』箇所）の着手率	55.8%	64.0%

Ⅱ 人を育てる

1.経営基盤の強化

（1）生産性向上への取組強化

①機械化・集約化の取組強化
②ICTの活用等によるデジタル化の推進

機械化による生産性向上の取組

（2）森林所有者の経営意識の向上

①森林所有者に対する経営サポート
②小規模所有者の林業生産活動の推進

（3）特用林産物の生産振興

①原木シイタケの生産振興
②新たな特用林産物の生産への取組

3.県民意識の醸成

（1）森川海のつながりへの意識の醸成

①体験イベントや森づくりなどを行う「森川海人っプロジェクト」の推進
②子どもなどへの森林環境教育の推進
③木育活動の強化・指導者の育成

さがの豊かな森川海のつながりの理解を深める「森川海人っフェス」

2.林業担い手の確保・育成

（1）労働環境の改善

①所得など労働条件の改善
②快適な就業環境の整備
③労働安全衛生の推進

（2）さが林業アカデミーなどによる人材の確保・技術向上

①林業就業者を新たに見出し教育する取組
②高性能林業機械などの研修によるスキルアップ

知る・触れる・学ぶのステップで新たな担い手を見出す「さが林業アカデミー」

林業の魅力を広く発信する「SAGA伐木チャンピオンシップ」

成果指標	現状 2021年度	目標 2032年度
林業担い手の人数	249人	390人
森林づくりボランティア活動者数（年間）	11,376人	13,200人

Ⅲ 木を使う

1.木材の供給体制の強化

(1) 県産木材の安定供給体制づくり

①川上から川下の木材供給ネットワークづくり

(2) 流通・加工体制の強化

①木材市場の機能強化
②製材工場の施設整備
③小規模製材工場による生産体制の強化

株式会社伊万里木材市場

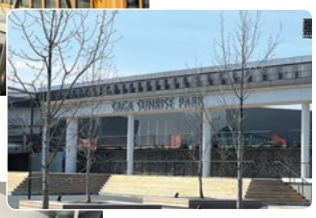
西九州木材事業協同組合

成果指標	現状 2021年度	目標 2032年度
県産木材の生産量（年間）	159千㎥	230千㎥
公共建築物の木造・木質化率	73%	83%

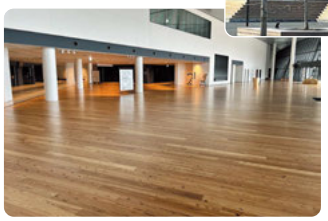
2.木材の利用拡大

(1) 建築物の木造化・木質化の推進

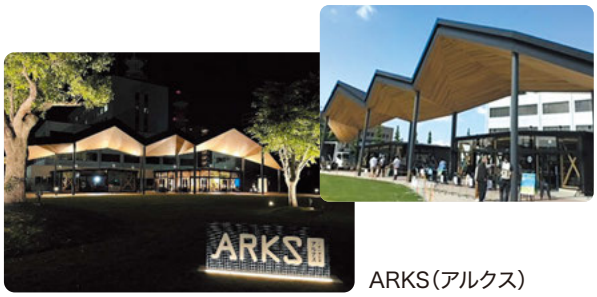
①住宅・非住宅建築物における
県産木材利用の推進
②「佐賀県建築物木材利用促進方針」に基づく
公共建築物や中大規模建築物の木造化・木質化



SAGAサンライズパーク
（パークテラス）



SAGAアリーナ



ARKS（アルクス）

(2) 県産木材の新たな需要創出

①家具や公共工事など新たな用途の開発・
多角的利用
②森林所有者への還元につながる
木質バイオマス利用の推進

(3) 県産木材の利用やサガンスギの普及啓発

①木材利用の意識の醸成
②木育活動の強化・指導者の育成（再掲）
③サガンスギのPR強化

5 佐賀県の森林・林業の現状と課題

集中豪雨による山地災害が多発

山腹崩壊
（多久市多久原地区）

土石流
（神埼市三谷地区）

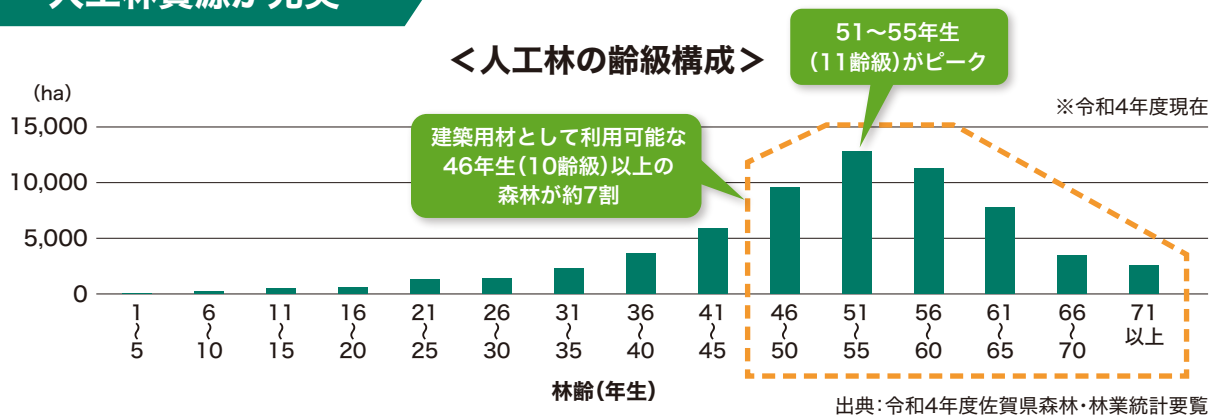
林道の路体崩落
（唐津市）

平成29年7月九州北部豪雨
による流木の漂着（鹿島市）

課題 防災などの多面的な機能の発揮

人工林資源が充実

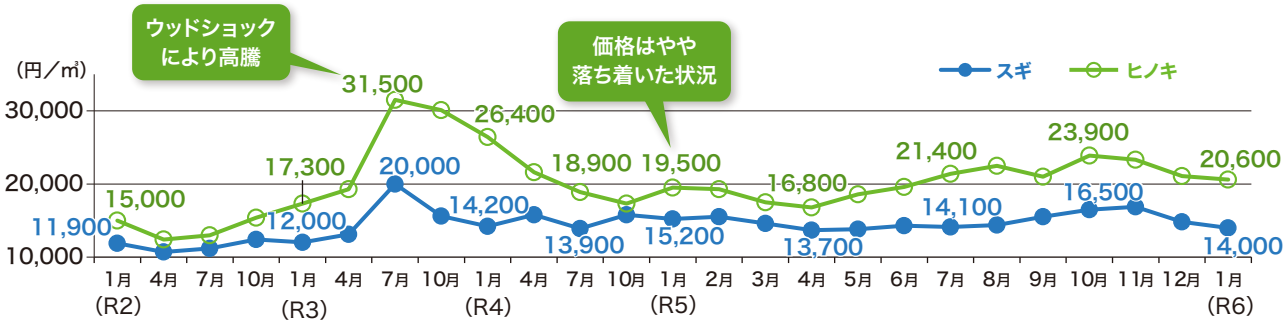
＜人工林の齢級構成＞



出典：令和4年度佐賀県森林・林業統計要覧

木材価格が長期低迷→近年、外材不足などにより価格が上昇

＜県産木材（丸太）価格の推移＞



出典：佐賀県林業課調べ

課題 木材の生産拡大（収益があがる林業の展開）

小規模な森林所有者が多い

＜保有山林規模1ha以上3ha未満の林家数割合＞

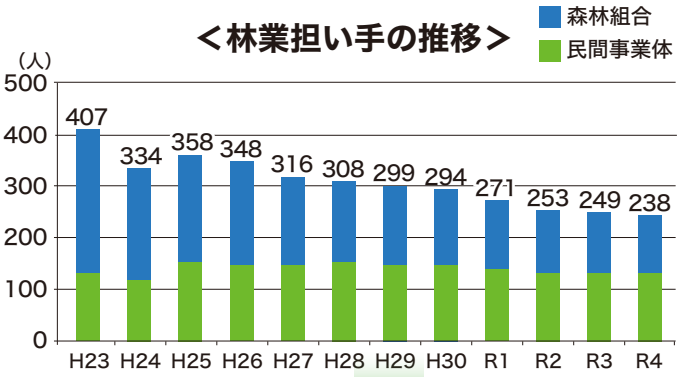
順 位	都道府県名	割 合
1	鹿児島県	76.8%
2	千葉県	72.6%
3	長崎県	71.9%
4	**佐賀県**	**68.0%**
5	新潟県	67.8%
全国平均		56.5%

出典：2020年農林業センサス

課題 森林施業の集約化

林業担い手が減少

＜林業担い手の推移＞



出典：佐賀県林業課調べ

課題 林業事業体の経営基盤の強化
林業担い手の確保・育成

県民協働による森づくりが進んでいる

九州北部三県
みんなの森林づくり2017

虹の松原クリーン大作戦

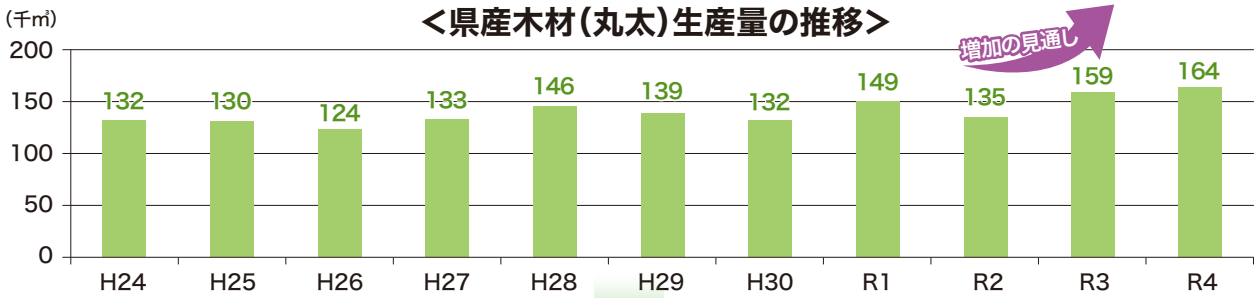
林業就業支援講習会

森川海人っ協定締結式
（漁協の山）

課題 県民意識のさらなる醸成

県産木材の生産量が増加傾向

＜県産木材（丸太）生産量の推移＞



出典：佐賀県林業課調べ

課題 木材の流通体制の強化及び利用

さがのおすすめ森林（もり）スポット

虹の松原（唐津市）

日本三大松原の一つで国の特別名勝に指定されている、全長約4.5km、幅約500mに渡って続くクロマツ林。

レイクサイド北山（佐賀市）

北山ダム周辺にキャンプ場やサイクリングロード、森林についての学習施設が整備されている。

下合瀬の大カツラ（佐賀市）

樹齢1,000年と推定される巨木であり、昭和37年に国の天然記念物に指定された。

日本植林発祥の地（基山町）

基山は、『日本書紀』の記載により、日本で最初の植林の地とされている。

伊万里木材コンビナート（伊万里市）

集成材などを大量かつ安定的に生産することを目的として、平成17年度から稼働している。主に九州のスギを活用して丸太の集荷、製材、集成材の生産まで同じエリアで行われている。

小川内の杉（吉野ヶ里町）

3本の株のうち2本が寄り添っていることから「夫婦杉」とも呼ばれる樹齢500年以上の巨木。平成28年度に五ケ山ダムの建設により移植された。

川古の大楠（武雄市）

川古の大楠は、全国で第5位(※)にランキングされる巨木で国の天然記念物に指定されている。

※環境省「自然環境保全基礎調査」より

多良岳材（鹿島市、嬉野市、太良町）

鹿島藤津地域で枝打ちや間伐などの施業基準を定めて生産される優良材。「多良岳材」として、ブランド化が進められている。

サザンカ自生北限地（吉野ヶ里町）

千石山のサザンカは自生北限地帯として国の天然記念物に指定されている。

佐賀県
令和5年（2023年）8月策定

Copyright © 2024 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

お問い合わせ
佐賀県 林業課
■TEL：0952-25-7132
■E-mail：ringyou@pref.saga.lg.jp

SAGA 2024
国スポ・全障スポ
新しい大会へ。
すべての人に、スポーツのチカラを。